

「国際日系デー」オンラインイベントへの鈴木馨祐外務副大臣ビデオメッセージ
(2020年6月20日)

皆さん、こんばんは。鈴木馨祐です。

このたびは「国際日系デー」オンラインイベントの開催に際して、日本政府を代表して外務副大臣の私からメッセージを寄せさせていただきたいと思います

まず、中国で発生した新型コロナウイルス感染症の影響で、伯でも大変大きな被害が出ていること、多くの方が亡くなっていることに心から哀悼の意を表します。

そして、多くの方が自宅待機であったり、色々な形で多くの不便をされる中で暮らしを送られていることに心から感謝と、そして、どうかして一刻も早い（コロナの）収束に向けて、日本としてもできる限りの協力をしていきたいと思っています。

あらゆるパンデミックや災害に悲劇に終わりはないということはありません。必ず、夜明けはやってきます。皆さんにおかれましても、心を元気に持っていただいて、新たな日常が戻ってくる日を共に迎えられるようにお祈りしたいと思っています。

日本としても様々な医療資機材の供与といった支援をしていきたいと思っています。何よりも日本の兄弟でもあるブラジルは大変大事な国だと思っています。日本とブラジルの関係を更に強化をしていく1つの機会にしていかななくてはならないと思います。

今回のイベントは、文協及びブラジル日本青年会議所のサンパウロの皆さんとする若い皆さんが主に担っていただいているものと聞いております。

こうした異常な状況だからこそ、人と人の繋がりの新しいかたちで、こうしたイベントが開催されることは大変素晴らしいことだと思いますし、そうした中で、日系人だけにとどまらず新しい繋がりを更に広く広げていただければ幸いです。

今から4か月前の本年2月、私は第24回国際ニッケイスポーツ親善大会（CONFRA/コンフラ）の開会式に出席させて頂きました。各国から集まった日系人の皆さんの熱気に私も非常に心を動かされました。

特にブラジルとの関係では、今年は日本とブラジルの国交が樹立されてから125年という節目の年であると聞いております。

そして、日本人移民が最初にブラジルにたどり着いてから112年という長い月日が経ったということも聞いております。その間、皆様や祖先の方々が、ブラジルの良き市民として、そして「ふるさと日本」を心の中に置きつつ、日本とブラジルの架け橋となっただきました。今の日本とブラジルの関係は、そうした皆さんの努力の礎の上に成り立っていると思っています。日本政府、そして日本国民はそのことに感謝したいと思っています。

これからもブラジルそして他の多くの国でも皆様の暮らしが続いていきます。これで決して終わりではありません。このイベントをきっかけに、新しい関係を我々も作っていきたいと思いますし、皆様もそうした関係を構築していただきたいと思っています。次世代の方々のイベントは今日たくさんあるんだと思います。皆様におかれましては、日本とブラジルを繋ぐ、「外交官」として、架け橋としての役割を我々も期待しています

両国の関係が一層強く、深くなっていくこと、そして皆様一人一人が大変な状況ですけれども、新しい日常を取り戻して、それぞれに幸せに健康に日々を送れる状況を改めて迎えられることを私からもお祈りさせていただきます。

安倍総理も先般ブラジルを訪問し、非常に強い印象を受けておられました。更には、日本の皇室の方々もブラジルに何回もご訪問されています。そうした様々な公式なチャンネルと同時に、日本とブラジルの両国の往来は益々増えていくと考えています。

次の時代を担うのは本日ご覧の皆様方です。是非ともに日本とブラジルの新しい関係を繋いでいこうではありませんか。

このイベントにメッセージを寄せさせていただくことを感謝申し上げまして、日本政府を代表しての私外務副大臣鈴木馨祐からのメッセージとさせていただきます。

どうもありがとうございます。オブリガード。

(了)